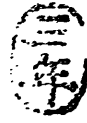


1248

號七五



房官臣大		課局務主		裁	決	大臣	件	番	受
了結	領受	出提	領受					號番	名
明治	明治	明治	明治	軍事					
年	年	年	年	第一四九					
十月	十月	十月	十月	聯					
十二	五日	五日	五日	長局帶					
日	日	日	日	主務局長		次	密第四一四號		
				參事官		官	在御將校ノ素行ニ關スル件		
				主務課長		高級副官	應名軍事課		
				主務課員		主務副官	審案筆記者		
				主務課員		主計	審案筆記者		

步兵課補任傳連帶

第五三號

一〇九

高級副官ヨリ第八師團參謀長へ通牒案

豫備陸軍歩兵少尉鈴木英太郎ノ素行ニ関シ其ノ向ヨ  
 リ別紙甲號ノ報告有之候ニ付臺灣總督府陸軍參謀長  
 へ照會致候處別紙乙號ノ回答有之少尉ノ素行ニ就テハ  
 特ニ注意ヲ要スルモノト被存候然ルニ少尉ハ本年八月十九  
 日出發原籍地ニ向ヒ帰還ノ途ニ就キタル旨申添有之候  
 條將來貴師團長ニ於テモ少尉ニ對シ監督上一層御留  
 意相成様取計相成度為念及通牒候也

陸軍第一九二號  
 十月十二日



(別紙甲號)

左郷將校ノ素行ニ関スル件

原籍巖手縣盛岡市仁王原小路十四番戸

現住所不定

豫備歩兵少尉 鈴木英太郎

右素行不修迹ニ窃盜被告事件ニ付臺北巖警務課ニ於テ取調

ヲ受ケ結局做罪處分ニ附セラレタル事實アリ其ノ内容左ノ如シ

一、鈴木少尉ハ去ル四十二年七月ヨリ臺灣巡査奉職中ノ處本年四

月三十日素行不修、結果懲戒免職トナリタルモノナリ

二、其ノ後一定ノ職業ナシ臺北徘徊中元臺灣巡査タリシ知人住

所不定鈴木繁ニ邂逅シ同人ト共ニ臺北住本島人ニ階一室

1251

戸  
太郎  
於取調  
如シ  
本年西  
知人住  
二階一室

1251

官房留置

ヲ借り同居セリ

三、七月十八日右西名ハ艦艀貸吐敷ニ登楼シ金、二十三円六十五銭ノ遊興ヲ為シタルモ全ク所持金ナク樓主ハ其ノ筋ハ告訴セントシタルニ銀ホ少尉ハ之ヲ中學時代學友タリシ臺灣歩兵第一聯隊歩兵中尉對馬小次郎ニ依頼シタル間中尉ハ之ヲ引受ケ七月二十日仕

拵ヒタリ

四、七月二十日頃前記鯨ニカ莫ク知人巡査沼尾徹之助方ニ到リ沼尾カ出勤不在中時計及衣類十二点(價格約五十四円)ヲ盗取シニ英太郎(少尉)ハ之ヲ質店ニ持行き自己ノ名義ニテ金七円ニテ入質シ談金ハ鯨系ニ、英太郎西人ニテ飲食ニ費消シタリ但シ沼尾巡査ハ自己ノ身分ヲ顧慮シ被害届ヲ提出セ入

五、然ルニ西人ハ所持金欠乏糊口ニ窮シ終ニ共謀シ七月二十六日午右九時頃繁ニハ喜屋比鯉舩ニ居住スル松本延次郎方ハ其ノ不在ニ乘シ忍ヒ入り屋外ニ英太郎ヲ待ツシノ置キ黒紋付絹羽織一枚ヲ盗取シタリ

六、七月二十日鈴本繁ニハ石臼邸盗嫌疑者トシテ臺北廳警務課ニ引致取調ヲ受ケ申立テタル要領左ノ如シ

自分ハ去ル四年喜屋濱巡查ヲ拜命シ居タル扇取四十二年禁戒免職トナリ其ノ後流浪中豫テ知人ナル豫備歩兵少尉鈴本英太郎ト出會シ爾後同居セシモ共ニ所持金ナキヨリ第五項ノ犯罪ヲ敢行(贓物ハ英太郎ヲ(松本真藏ト偽名)シテ金四円ニテ入算セシメ直ニ参内ヲ飲酒ニ費消シ殘金壹圓ハ英太郎ヲ所持

五

六

應 員

シ居レリ其ノ他七月ニナリ知人ノ洋服一着(價約ニ千五百)ヲ又七月ニナリ  
日他ニテ外套壹枚外衣類ニ点(價約ニ千六百)ヲ竊取レ五円ニテ入  
質シ何レモ鈴木英太郎ト共ニ飲食ニ費消セリ

七、右ニ依リ警務課ニ於テハ鈴木英太郎(少尉)ヲ召喚セシニ英太郎

ハ鑑察ニカ七月二十八日留置サレタリト聞キ踪跡ヲ晦シタルモ八月四

日同廠ニ自首シ前項ノ事實ヲ申立テタリ

警務課ニ於テハ鈴木英太郎ノ所犯微罪且ツ在郷將校タル

身分アルヲ顧慮シ本人ヲ其ノ知人ナル前記對馬中尉ニテ

渡シタリ

(別紙乙號)

(別紙乙號)

鈴木豫備少尉ト對馬中尉トノ關係事情

一、西人同知ニシテ夫ニ知里盛岡中學ニ在學子シ親交アリ明治三十六年鈴木同校ヲ退學シ上京セシモ爾來尚音信ヲ絶タサリシ後對馬ハ士官候補生トナリ四十年五月士官學校ヲ卒業シ青森歩兵第五聯隊ニ歸隊見習士官タリシ當時鈴木ハ一年志願夫トシテ同隊ニ服役シアリシヲ以テ常ニ相往來セリ同年十二月鈴木ハ滿期除隊セシカ爾後一、二回鈴木ホヨリ書信ヲ受ケタレノニシテ莫ク後ノ消息ハ全ク知ラサリシ

二、然ルニ本年六月鈴木ハ突然對馬ヲ訪セ渡臺後臺南廳奉職シ居タルモ(巡查タリシコトハ云ハサリシ)思ハシカラサルヲ以テ辭職シ臺北ニ於テ更ニ職業ヲ求メントスル旨ヲ語リ且ツ旧仕地ニ



於テ疾病ノ為ニヶ月餘入院シ所持金ハ老ク費消シテヲ以テ可  
成速ニ就職セント欲スルモ他ニ知人モナク煩ル困窮シ居ル様様ナ  
リシヲ以テ對馬ヘ曰詔上之ヲ默視スルニ忍ヒス知人臺灣日々新  
報社員及川萬四郎(同知人)ニ依頼シ彼不ヲ辨護士川瀨某方  
ノ書生タラシム

三、七月十日頃ニ至リ病ホハ身體衰弱シ川瀨方ニ居ルコト困難ナル  
ヲ以テ當分對馬ノ宿舎ニテ静養シタキ情依頼シ來リタルニ  
ヨリ對馬ハ止ムナリ之ヲ承諾シ同居セシカ爾來病不ハ殆ト外  
出スルコトナク常ニ讀書シツアマリシ

四、然ルニ七月十九日夕外出シ其ノ夜歸來セズ翌朝ニ至リ友人  
相田某ヲ以テ左ノ意味ノ依頼状ヲ差遣セリ

前夜友人某歸省送別、為艫舳遊、廓醉月樓、登り金二十四  
 円ヲ貴消セシモ金貨ノ持合ナリ歸宅シ得ス然ルニ同行者某ハ  
 明ニ十日俸給受領ノ上支拂ヲ答テラ以テ夫レ返右支拂金  
 額ニ對スル金品ヲ貸與サレ度シ

當時對馬ハ金呂ノ持合モナリ断然之ヲ拒絶セント思惟セシモ元  
 來親友ニシテ目下自己カ助力中ノ者ナルノミナラス在郷將校ノ  
 身分アルヲ顧慮シ樓主ニ對シ明ニ十日返支拂ヲ猶豫アリタキト  
 ノ書状ヲ送レリ

然ルニ鈴木ハ歸宿セサルノミナラスニ十日ニ至ルモ尚支拂ハサルコトヲ知  
 リ對馬ハ種々鈴木ノ所在ヲ搜索セシモ之ヲ知ルヲ得ザリシ  
 越エテ同月二十六日頃鈴木ノ實兄(目下高知師範學校長)ヨリ電

報送金アリシヲ以テ對馬ハ更ニ種々鈴木ノ所在ヲ搜索シ漸ク之ヲ確メ右送金(十六円)ニ不足額ヲ鈴木ニ與ヘ醉月樓ノ支拂ヲ完了セシメタリ

五、其ノ後鈴木ハ對馬ヲ訪ヒシコトモナク居所不明ナリシモ對馬ハ鈴木カ自己ノ所為ヲ耻ナ接近セサルモノナラント思惟シ別ニ意ニ介セサリシカ八月四日對馬カ週番服務中刑事所下某ナル者鈴木ヲ伴ヒ面會ヲ求メ左ノ意味ノ陳述ヲ為セリ

鈴木ハ友人某ノ共犯罪ノ疑アル為警務課ニ於テ搜索中ノ取調本日自ラ出頭セシニ付取調タルニ別般犯罪ナキモ所持金ナリ居所モナキヲ以テ浮浪罪ニ問ハレ留置セララルルニ至ルヘシ然ルニ本人ハ在郷將校ノ身分モアルコト故引受者ノ有無ヲ問ヒタ

ルニ知人對馬中尉ヲモ同人ニ種々迷惑ヲ覺ケアルヲ以テ此上依頼  
 スルヲ得サル旨告ヘタリ就テハ本人ノ名譽ヲ思ヒ今一應引取具  
 レマシキヤ

右ノ如キ事情ナリシヲ以テ對馬ハ余儀ナク再々鈴木ヲ引取リ

宿舎ニ同居スルニ至レリ

六、將校團長ハ右顛末ヲ聞キ對馬ニ對シ注意スル所アリ故テ對馬  
 ハ鈴木ノ實兄ニ交渉シ八月十九日出帆ノ便船ニテ内地ニ歸還セシ  
 ヲタリ

臺副人高第 三五 憑

在卿將校ノ素行ニ関スル件回答

九月廿八日

明治四十四年九月廿六日

臺灣總督府陸軍部

陸軍省副官竹島音次郎殿

豫備歩兵少尉鈴木英太郎ノ素行ニ関

シ八月三十一日付陸密第一六二號ヲ以テ御照

會之趣了義同人ノ行為ニ関シ當部ノ

知得セシ事實ハ御添付ノ報告書寫ト略同

様ニシテ他ニ申報スル事項モ廿三ハ又對馬

中尉トノ關係事情ハ別紙之通ニ有之ル尚

鈴木少尉ハ八月十九日原籍地ニ向テ歸還

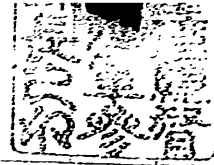


1261

憲兵報告係鈴木  
少尉ノ素行ニ関  
シテ本回書  
ハ御添付ノ報告  
書寫ト略同  
様ニシテ他ニ  
申報スル事項  
モ廿三ハ又對  
馬中尉トノ關  
係事情ハ別紙  
之通ニ有之ル  
尚鈴木少尉ハ  
八月十九日原  
籍地ニ向テ歸  
還

上書課  
掛帯録

九月廿八日



閣下、何照、同、馬、尚、選

1261

上查課員

掛帯録員

憲兵報告後、鈴木少尉、於途、男、不、如、り、に  
裁、し、て、本、回、者、と、助、け、た、男、々、々、の、裁、こ、り、故  
に、少、尉、に、對、し、最、高、の、処、分、を、暫、時、見、合、  
は、る、意、見

支、隊、行、の、請、願、の、所、長、三、浦、隆、三、年



發候間御義知相成度候也

一  
區

一  
頁

## 鈴木豫備士尉ト對馬中尉トノ關係事情

一兩人ノ同郷ニシテ共ニ郷里盛岡中学ニ在学シ親交アリ明治三十二年鈴木ハ同校ヲ退学シ上京セシモ爾來尚吾信ヲ絶タザリシ

後對馬ハ士官候補生トナリ甲午年五月士官学校ヲ卒業シ青森歩兵第五所隊ニ歸隊見習士官タリシ當時鈴木ハ一年志願兵トシテ同隊ニ服役シアリシヲ以テ常ニ相往來セリ同年十月鈴木ハ満期除隊セシカ爾後一ニ回鈴木ヨリ書信ヲ受ケタルノミニシテ其後ノ消息ハ全ク知ラザリシ

ニ然ルニ本年六月鈴木ハ突然對馬ヲ訪ハ渡臺後



一 官 一

臺南廳に奉職シ居タルモ(巡查タリシコトハ云ハサリシ)思ハシカ  
 ラサルヲ以テ辭職シ臺北ニ於テ更ニ職業ヲ求メントス  
 ル旨ヲ詔リ且少旧任地ニ於テ痲病ニ為ニテ目録入院  
 シ所持金ハ悉ク費消シタルヲ以テ可成速ニ就職  
 セント欲スルモ他ニ知人モナク頗ル困窮シ居ル模様ナ  
 リシヲ以テ對馬ハ旧頭上之ヲ黙視スルニ忍ヒス知人  
 臺南日々新報社員及川萬四郎(同郷人)ニ依  
 頼シ鈴木ヲ辯護士川瀬某方書生タラシム  
 三 七月十日頃ニ至リ鈴木ハ身體衰弱シ川瀬方ニ居ル  
 コト困難ナルヲ以テ當分對馬ノ宿舎ニテ靜養シタ  
 キ旨依頼シ來リタルヨリ對馬ハ止ムナク之ヲ承諾

シ同居セシカ爾來鈴木ハ殆ト外出スルコトヲ常ニ讀  
書シツアリシ

四然ルモ七月十九日夕外出シ其夜歸來セシ翌朝至  
リ友人大和田某ヲ以テ左ノ意味ノ依頼状ヲ差遣  
セリ

前夜友人某歸者送別ノ為艱脚遊廓醉月  
樓ニ登リ金六十圓ヲ費消セシモ金員ノ持合ヲ歸  
宅レ得ス然ルモ同行者某ハ明日俸給受領ノ上  
支拂フ筈ナルヲ以テ夫レ迄右支拂金額ニ對スル金  
品ヲ貸與サレ及シ

當時對馬ハ金品ノ持合モナク断然之ヲ拒絶セント思惟

一 四 頁

とシモ 元來親友ニシテ目下自己カ助力中ノ者ナル  
シナラス在卿將校ノ身分アルヲ顧慮シ據去リ對シ明

ニ十日迄支拂ヲ猶豫アリタキ旨ノ書狀ヲ送レリ

然ルモ鈴木ハ歸宿セサルノコトナラス二十日ニ至ルモ尙支拂

ハサルコトヲ知リ對馬ハ種々鈴木ノ所在ヲ搜索セシモ

之ヲ知ルヲ得サリシ

越エテ同日廿六日頃鈴木ノ實兄(目下高知師範学

校長)ヨリ電報發送金アリシヲ以テ對馬ハ更ニ種々

鈴木ノ所在ヲ搜索シ漸ク之ヲ確メ右送金(去來)

不足款ヲ鈴木ニ與ヘ辭月據ノ支拂ヲ完了セシメタ

リ

五其後鈴木ハ對馬ヲ訪ヘシコトモテ居所不明ナリシ  
 モ對馬ハ鈴木ガ自己ノ所為ヲ耻テ接道セサル  
 モナラント思惟シ別々意ハ分セカリシガ八月四日對馬  
 カ週番服務中刑事奉行下某ナル者鈴木ヲ伴  
 ヒ面會ヲ求メ左ノ意味ノ陳述ヲ爲セリ  
 鈴木ハ友人某ノ共犯罪ノ疑アル爲敬務課ニ於テ  
 捜索中ニ本日自ラ出頭セシコト取調タルニ別  
 段犯罪ナキモ所持金モテテ宿所モテキテ以テ浮浪  
 衆ト問ハレ留置セラルルニ至ルヘシ然ルニ本人ハ在  
 郷將校ノ身分モアルコト被引受者ノ有無ヲ問ヒ  
 タルニ知人對馬中尉アルモ同人之種々迷惑ヲ

懸ケ足ヲ以テ北上依頼スルヲ得サル旨答ヘタリ統  
テハ本人ノ名譽ヲ忍ヒ今一應引取吳レマシキヤ

右ノ如キ事情ナリシヲ以テ對馬ニ余儀ナク再タヒ鈴  
木ヲ引取り宿舎ニ同居スルニ至レリ

大將校團長ハ右類未ラ聞キ對馬ニ對シ注意  
スル所アリ依テ對馬ニ鈴木ノ實質兄ニ交渉シ  
八月十九日出帆ノ便船ニテ内地ニ歸還セシメタリ

未調査ハ新屬守備隊司令官ノ報告ニ依リ作  
製ス



陸軍

高級副官ヨリ臺灣總督府陸軍參謀長ニ照會案

豫備歩兵少尉鈴木英太郎ノ素行ニ関シ今回別紙

寫ノ如キ報告有之果シテ事實トセハ將校タルノ体

面ヲ保持シ難キ様被認候ニ付テハ少尉カ在臺中

ニ於ケル行動ニ関シ詳細調査、上回答相成度又開

報告ニ依リ對馬中尉トハ中學時代、學友タルカ

如ク被存候トモ近來ニ於ケル兩人ノ關係ニ付テモ

テ承知致度候也

陸軍第一六二

八月三十日

(別紙寫)

在柳将校ノ素行ニ関スル件

原籍巖手縣盛岡市仁王原小路十四番戸

現住所不定

豫備歩兵少尉 鈴木英太郎

右素行不修述ニ窃盜被告事件ニ付臺北廳警務課ニ於テ取調ヲ受ケ結局微罪處分ニ附セラレタル事實アリ其ノ内容左ノ如シ

一 鈴木少尉ハ去ル四十二年七月ヨリ臺灣巡查奉職中ノ處本年四月三十日素行不修ノ結果懲戒免職トナリタルモノナリ

官房留置



二、其ノ後一定ノ職業ナリ臺北徘徊中元臺灣巡查メリ知  
人住所不定鈴不繁ニ遊遊シ同人ト天ニ臺北住本島  
人ニ階一室ヲ借り同居セリ

三、七月十八日右兩名ハ艇舩賃坐敷ニ登樓シ金二十三円六十五  
元ノ遊興ヲ為シタレモ全ク所持金ナリ樓主ハ其ノ筋ヘ告  
訴セントシタルニ鈴木少尉ハ之ヲ中學時代學友タリシ臺  
灣歩兵第一聯隊歩兵中尉對馬小次郎ニ依頼シタルニ  
同中尉ハ之ヲ引受ケ七月二十八日仕掛ロタリ

四、七月二十日頃前記繁ニカ其ノ知人巡查沼尾徹之助方ニ  
到リ沼尾カ出勤不在中時計及衣類十二矣(價格約五  
十円)ヲ竊取セシニ英太郎(少尉)ハ之ヲ質店ニ持行き自

己ノ名義ニテ金七円ヲ入質シ談金ハ繁ニ英太郎西人ニテ  
 飲食ニ費消シタリ但シ沼尾巡查ハ自己ハ身分ヲ顧慮シ  
 被害届ヲ提出セス

五 然ルニ西人ハ所持金欠乏糊口ニ窮シ終ニ共謀シ七月二十  
 六日午後九時頃繁ニ臺北艋舺ニ居住スル松本延次  
 郎方ヘ其ノ不在ニ乘シ忍ヒ入り屋外ニ英太郎ヲ待タシ  
 ノ置キ黒紋付紹羽織一牧ヲ竊取シタリ

六 七月二十八日鈴木繁ニハ右竊盜嫌疑者トシテ臺北廳警  
 務課ニ引致取調ヲ受ケ申立テタル要領左ノ如シ  
 自分ハ去ル四十二年臺灣巡查ヲ拜命シ居タル處昨四十  
 三年懲戒免職トナリ其ノ後流浪中豫ヲ知人ナル豫備

步兵少尉鈴木英太郎ト出會シ爾後同居セシモ共ニ所持金  
 ナキヨリ第五便ノ犯罪ヲ取行シ贓物ハ英太郎ヲ(松本真藏  
 ト偽名)シテ金四円ヲ入算セシ直ニ参内ヲ飲酒ニ費消シ残  
 金壹円ハ英太郎カ所持シ居レリ其ノ他七月二十三日知人ノ  
 洋服一着(價約三十五円)ヲ又七月二十三日他ニテ外套壹枚外  
 衣類ニ矣(價約二十六円)ヲ窃取シ五円ニテ入算シ何レモ鈴  
 木英太郎ト共ニ飲食ニ費消セリ

七  
 右ニ依リ警務課ニ於テハ鈴木英太郎(少尉)ヲ召喚セシニ英  
 太郎ハ繫索ニカ七月二十八日留置サレタリト聞キ踪跡ヲ晦シケル  
 モ八月四日同廳ニ自首シ前便ノ事實ヲ申立テタリ  
 警務課ニ於テハ鈴木英太郎ノ所犯微罪且ツ在郷將校

タル身分アルヲ顧慮シ本人ヲ其ノ知人ナル前訃對焉中尉  
一子 渡シタリ

陸

軍